

目的

対象の特性を捉え、根拠に基づく支援を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

- 1 妊娠期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 臨床判断モデルの思考をとおして、妊娠各期に必要な助産ケアに気づくことができる。
 - 2) 一連の妊婦健康診査が理解できる。
 - 3) 妊婦健康診査技術が習得できる。
 - 4) 妊娠経過から分娩・産褥を予測し、予防的観点から日常生活上のセルフケアを促す援助が理解できる。
 - 5) 妊婦や家族への出産準備・親役割獲得の援助が理解できる。
- 2 対象の状態に応じた助産実践が理解できる。
 - 1) 分娩見学やバースレビューをとおして、出産体験の振り返りと受容の支援が理解できる。
 - 2) 1 か月健康診査までの母子と家族を支援するための、助産ケアと保健指導が理解できる。
 - (1) 母乳育児支援の実際が理解できる。
 - (2) 対象の特性をふまえた保健指導が理解できる。
- 3 対象者の意思決定支援のためのパートナーシップを築く必要性が理解できる。
- 4 保健・医療・福祉チームの連携・協働のあり方と助産師の役割と責務について理解できる。
- 5 助産師学生として望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニードや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

目的

妊産褥婦および胎児・新生児とその家族が安全・安楽に経過するための必要な実践能力を養う。

目標

- 1 妊産褥婦および胎児・新生児とその家族の健康状態を診断し、妊娠・分娩・産褥がより健康で安全・安楽に経過し育児を主体的に行えるように、支援ができる。
- 2 保健・医療・福祉チームにおける助産師の役割と責務を自覚し、多職種と連携・協働しながら継続的な支援ができる。
- 3 女性とその家族の尊厳と権利を尊重する倫理観と自己の助産観を養う。

<助産診断・技術学実習 I >

[3 単位 135 時間]

目標

- 1 妊娠期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 臨床判断モデルの思考をとおして、妊娠各期に必要な助産ケアができる。
 - 2) 一連の妊婦健康診査が実施できる。
 - 3) 妊婦健康診査技術が習得できる。
 - 4) 妊娠経過から分娩・産褥を予測し、予防的観点から日常生活上のセルフケアを促す援助ができる。
 - 5) 妊婦や家族への出産準備・親役割獲得の支援ができる。

- 2 対象の状態に応じた助産実践が理解できる。
 - 1) 分娩期の臨床判断能力を養うことができる。
 - (1) 分娩介助技術が理解できる。
 - (2) 臨床判断モデルの思考をとおして、分娩経過に応じた産婦と家族への助産ケアが理解できる。
 - (3) 分娩後の早期母子接触を促すケアが理解できる。
 - 2) 分娩経過やパースレビューをとおして、出産体験の振り返りと受容の支援が理解できる。
 - 3) 1 か月健康診査までの母子と家族を支援するための、助産ケアと保健指導が理解できる。
 - (1) 母乳育児支援の実践が理解できる。
 - (2) 対象の特性をふまえた保健指導が理解できる。

- 3 対象者の意思決定を支援するためのパートナーシップを築く必要性が理解できる。

- 4 保健・医療・福祉チームの連携・協働のあり方と助産師の役割と責務について理解できる。

- 5 助産師学生として望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニードや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

<助産診断・技術学実習Ⅱ>

[3単位135時間]

目標

- 1 分娩期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 一連の分娩介助ができる。
 - 2) 臨床判断モデルの思考をとおして、分娩経過に応じた産婦と家族への助産ケアができる。
 - 3) 愛着形成を促すための、分娩後の早期母子接触ができる。
- 2 産褥・新生児期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 分娩経過やバースレビューをとおして、出産体験の振り返りと受容の支援ができる。
 - 2) 臨床判断モデルの思考をとおして、産褥・新生児期の経過に応じた助産ケアができる。
 - 3) 1か月健康診査までの母子と家族を支援するための、助産ケアと保健指導ができる。
 - (1) 母乳育児支援が理解できる。
 - (2) 対象の特性をふまえた保健指導ができる。
- 3 対象者の意思決定を支援するためのパートナーシップを築くことができる。
- 4 保健・医療・福祉チームの連携・協働のあり方と助産師の役割と責務について理解できる。
- 5 助産師学生として望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニーズや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

<助産診断・技術学実習Ⅲ>

[3 単位 135 時間]

目標

- 1 分娩期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 一連の分娩介助ができる。
 - 2) 臨床判断モデルの思考をとおして、分娩経過に応じた産婦と家族への助産ケアができる。
 - 3) 愛着形成を促すための、分娩後の早期母子接触ができる。

- 2 産褥・新生児期の臨床判断能力を養うことができる。
 - 1) 分娩経過やバースレビューをとおして、出産体験の振り返りと受容の支援ができる。
 - 2) 臨床判断モデルの思考をとおして、産褥・新生児期の経過に応じた助産ケアができる。
 - 3) 1 か月健康診査までの母子と家族を支援するための、助産ケアと保健指導ができる。
 - (1) 母乳育児支援ができる。
 - (2) 対象の特性をふまえた保健指導ができる。

- 3 ハイリスク妊産褥婦・新生児の助産ケアが理解できる。

- 4 対象者とパートナーシップを築き、意思決定の支援ができる。

- 5 保健・医療・福祉チームの連携・協働のあり方と助産師の役割と責務について理解できる。

- 6 助産師学生として望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニーズや価値観を尊重し、誠実に対応できる。

目的

地域の特徴や母子保健活動について理解し、母子をとりまく保健・医療・福祉チームと連携および協働し地域における子育て世代を包括的に支援するための能力を養う。

目標

- 1 地域の特徴をふまえた地域母子保健活動の実際が理解できる。
 - 1) 対象の生活圏の地域特性が理解できる。
 - 2) 母子が居住する地域で提供されている母子保健活動が理解できる。
 - 3) 家庭訪問をとおし、産後 4 か月程度までの母子の健康状態がアセスメントできる。
 - 4) 産後ケアセンターの役割と機能を理解し、切れ目ない支援の必要性が理解できる。
 - 5) 母子をとりまく保健・医療・福祉チームとの連携および協働が理解できる。
 - 6) 災害時の母子への支援が理解できる。
- 2 地域における母子保健活動の実際から助産師の役割と責務について考察できる。
- 3 助産師学生としての望ましい態度を習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニーズを尊重し、誠実に対応できる。

助産管理実習

[1単位 45 時間]

目的

助産業務管理の実際と周産期医療におけるリスクマネジメントを理解し、保健・医療・福祉チームにおける連携・協働のあり方と助産師の役割を考察する。

目標

- 1 病院・診療所・助産所等の特性に応じた助産業務管理が理解できる。
- 2 周産期医療システムの運用とリスクマネジメントの実際が理解できる。
- 3 保健・医療・福祉チームにおける助産師の専門性と役割・責務および多職種との連携・協働について考察できる。
- 4 助産師学生としての望ましい態度が習得できる。
 - 1) 学習課題の達成に向けて問題意識をもち、主体的に学習できる。
 - 2) 助産実践を振り返り、自己の課題が明確にできる。
 - 3) 対象のニーズや価値観を尊重し、誠実に対応できる。